

田口弘文庫 高村光太郎資料コーナー
オープン記念講演会

「田口弘と高村光太郎 交差した二つの詩魂」



高村光太郎連翹忌運営委員会
代表 小山弘明



平成30年1月13日(土)
於：東松山市立図書館

田口弘先生・東松山と高村光太郎

天正11年（1922） 松山町に出生。

旧制松山中学校を経て、東京府大泉師範学校卒業。卒論は「高村光太郎研究」。このころから文学に親しみ、俳人・柳田知常を紹介し、光太郎を知る（昭和18年＝1943）。

昭和19年（1944） 南西方面艦隊司令部付海軍教員として、インドネシアに着任。出征前に光太郎に挨拶に行き、書

や詩集『記録』を貰う。

乗っていた輸送艦が撃沈され、九死に一生を得る。光太郎の書などは海に沈む。

昭和21年（1946） 復員。新制松山中学校に赴任。

昭和22年（1947） 花巻郊外太田村の光太郎を訪問。

手書きの詩集『ジャワ詩抄』を贈る。

昭和24年（1949） 松山中学校生徒の高野晃一・菊池方

利・馬橋旭とともに、二度目の太田村訪問。

光太郎と手紙のやりとり。食料、日用品などを送り、光太郎から書などを贈られる。

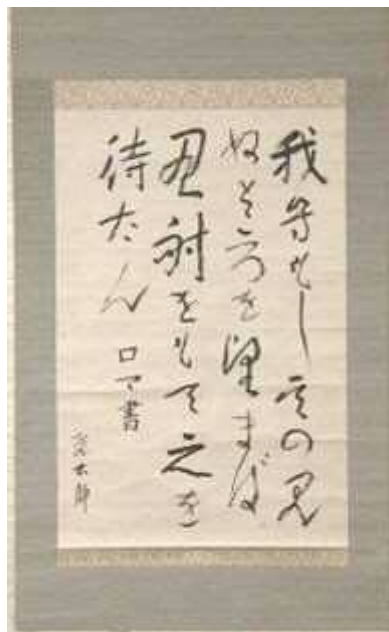
昭和25年頃 学生時代に作製した光太郎に関するスクラップ

ブックを、草野心平に貸す。心平編集の中央公論社版『高村

光太郎選集』全六巻の資料として活用される。

昭和31年（1956） 光太郎葬儀に参列。翌年から開催さ

れた連翹忌に30回ほど参加。



光太郎から贈られた書
「ロマ書」の一節



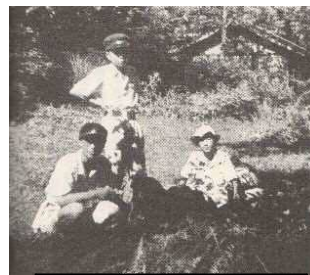
『高村光太郎選集』



草野心平



光太郎からの封筒



昭和24年 太田村



詩集『記録』



田口弘先生

「正直親切」碑



昭和58年（1983）、東松山市立新宿小学校校庭に建立
 もともとは、昭和26年（1951）、蟄居生活を送っていた太田村の山小屋近くの太田小学校山口分教場が、山口小学校に昇格した際、校訓として贈った言葉。

書も山口小学校に贈られた。一年生にも読めるようにと、左から右に、さらに現代仮名遣いで読み仮名も書かれている。

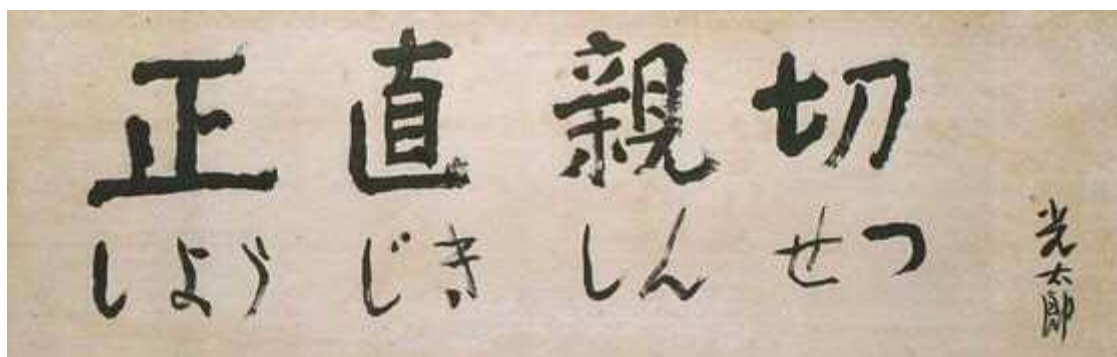
光太郎が山口小学校に贈った書



旧山口小学校跡地の「正直親切」碑
 平成10年頃建立



荒川区立第一日暮里小学校「正直親切」碑
 昭和60年建立



日本スリーデーマーチ

歩き通して成長する子どもたち 日本スリーデーマーチ第30回記念大会 東松山市元教育長・田口弘さん

彫刻家で詩人だった高村光太郎が昭和15年につくった「歩くうた」という歌がある。(歌詞略)

詩人で東松山市の教育長を76年から16年半務めた田口弘さん(85)は、「日本歩け歩け協会(日本ウォーキング協会)の旧名)の『歩け』は、この詩が原点になっていると思うんです」と語る。「後に曲がついてレコード化されたが、4番まである詞には、軍隊的な言葉が一つも出てこない」

田口さんは中学の恩師が光太郎と交友があった縁で、光太郎に傾倒。戦前の高村宅を訪れ、自分で書いた詩を見てもらったこともある。「先生は歩くのが好きで書斎にこもらずに、こまめに歩き回っていました。素朴な原始的な力強さを感じる、歩いても師です」(後略)

(平成19年112007 『朝日新聞』)



昭和55年(1980)の第3回大会から、田口先生の奔走で東松山で実施。昨年は第40回記念大会。

歩くうた

あるけ。 あるけ。 あるけ。 あるけ。
 南へ、 北へ、 あるけ。 あるけ。
 東へ、 西へ、 あるけ。 あるけ。
 路ある道も、 あるけ。 あるけ。
 路なき道も。 あるけ。 あるけ。

あるけ。 あるけ。 あるけ。 あるけ。
 目ざすは、 かなた、 あるけ。 あるけ。
 けぶれる、 ゆく手、 あるけ。 あるけ。
 果てなき、 野づら、 あるけ。 あるけ。
 こごしき 磐根、 あるけ。 あるけ。

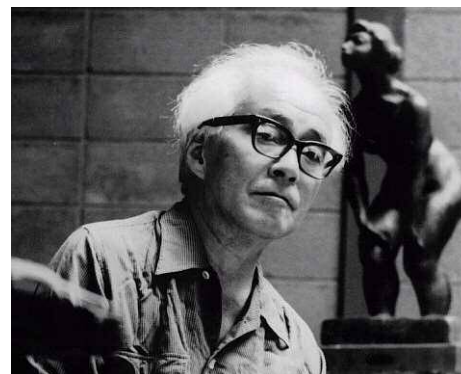
あるけ。 あるけ。 あるけ。 あるけ。
 身をやく、 日照り、 あるけ。 あるけ。
 塩ふく、 背中、 あるけ。 あるけ。
 身を切る、 吹雪、 あるけ。 あるけ。
 凍てつく、 目鼻、 あるけ。 あるけ。

あるけ。 あるけ。 あるけ。 あるけ。
 思ひは、 高らか、 あるけ。 あるけ。
 大地の、 きはみ、 あるけ。 あるけ。
 海さへ、 空さへ、 あるけ。 あるけ。
 吾等を、 とどめず。 あるけ。 あるけ。



高坂彫刻プロムナード

昭和61年（1986）から、東武東上線高坂駅前に、光太郎や田口氏と交流があった彫刻家・高田博厚（明治33年〓1900〓昭和62年〓1987）の作品32体（光太郎像を含む）が設置。



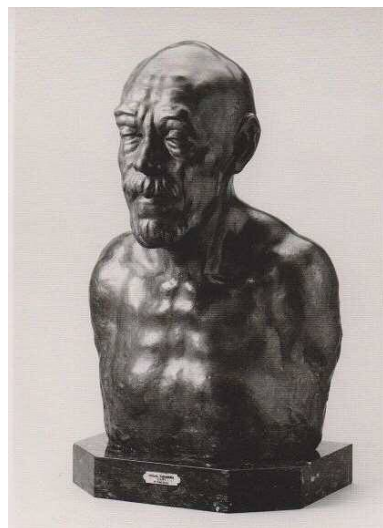
高田博厚作「高村光太郎」（昭和34年〓1959）



全国の同型像



岩手県立花巻北高校



豊科近代美術館

高田博厚没後30年展 高坂図書館
 平成29年（2017）6・7月
 高田博厚遺品東松山市に寄贈
 平成29年（2017）12月発表
 没後の御遺徳により実現



福井市美術館



花巻高村光太郎記念館 森のギャラリー



塩尻市古田晁記念館

高村光太郎「智恵子抄」詩句書展 昭和60年（1985）、東松山市立図書館

田口氏所蔵の光太郎書、埼玉出身の書家・成田歴史景氏の書いた光太郎詩句の書等が出品

第37回花巻高村祭 記念講演「詩と離れない生活」 平成6年（1994）

『日本古書通信』に「高村光太郎と出会った頃」執筆 平成12年（2000）

『詩文集 高村光太郎の生き方』刊行 平成21年（2009）、自費出版

光太郎関連資料寄贈 平成28年（2016）

「道程」「智恵子抄」などで知られる詩人で彫刻家の高村光太郎（一八八三〜一九五六年）の晩年に交流があった東松山市の元教育長田口弘さん（94）が二十四日、光太郎からの書簡や書など約百点を市に寄贈した。直筆の書簡十通はどれも、四十歳近く年下の田口さんに細かい気遣いを見せる誠実な人柄をしのばせる。田口さんは「高村さんに関心を持つ若い人の研究のために少しでも役立てたい。高村さんの高い精神にぜひ触れてほしい」と話している。

（『朝日新聞』）



「智恵子抄」などで知られる詩人で彫刻家の高村光太郎（1883〜1956年）と親交があった元東松山市教育長で同市在住の詩人・田口弘さん（94）が24日、高村の書や交流書簡などを同市に寄贈した。寄贈品は同市立図書館に収蔵され、8月10〜28日に一般公開される。森田光一市長は「東松山出身の梶田隆章先生のノーベル物理学賞受賞に続き、市の宝がまた一つ増えた」と感謝した。（『毎日新聞』）



高村光太郎資料展〜田口弘氏寄贈資料による〜

平成28年（2016）8月10〜28日 東松山市立図書館
8月21日には、関連行事として田口氏講演



ご逝去

平成29年2月9日 合掌

東松山市立図書館 田口弘
文庫 高村光太郎資料コー
ナー開設

平成30年1月13日



詩魂しこん

光太郎



田口弘先生

けさ八十歳



「彫刻の本性は立体感にあり。しかも彫刻のいのちは詩魂にあり。」(略)しかし彫刻にはもつと肝腎な根本生命がある。詩の魂である。立体感を重んずる余り、一にも二にも其事ばかりで彫刻を律してゐると、いつの間にか彫刻の生命が無機的なものとなる。芸術の総勘定としての生命が卻つて圧しつぶされてしまふ。(略)立体感をまでも生かすのは彫刻家の内にある詩の魂である。此所に詩と云ふのは、必ずしも文学的の謂ではない。所謂「詩的」なといふ事ではない。(略)人間の内にあ

八十歳のけさは春の彼岸の入り 雲なく風なし
白木蓮の円錐の樹形の花群れは
純白の光のいのちを一身に聚め
吹上の溢れるほどの豊満な花輪の賜りもの
それに応えるおまえの八十までは何だったのか
何でおまえは生きてきたのか
この日頃思案してもの怖じもなく答えれば
ハイ 感動を求めて生きて来ました と
その折々の天の配剤をいただいて
幼くして母、姉と一時に死別 父、兄妹と離ればなれ
中学時代かけがいのない師 柳田知常先生に私淑
駒込林町の高村光太郎さんの美に導かれ
アララギの五味保義先生の姿勢を敬慕し
戦いの末期 ルソン島沖を泳いで助かる
その折失つた高村さんの餞別の書「美しきもの満つ」は
岩手の山小屋で再び書いて頂いて 今在る
復員した青年教師は〈創造美育〉の運動に熱中したり
五年間 日教組のオルグでストライキに人の重さを知る
また全国教育研究会の「美術」の司会を担当
推されて埼玉教職員組合の委員長をしたり
自分の能力の適正を危ぶむ労働金庫の専務まで
そんな有為転変もいまま思いかえせば
みんなみんな神さまの深いお図らいだったのか
この一人の運命の曲がり角はそうとしか考えられない
きわどくしかも無理のない選択だったのか

詩精神とは事物の中心に直入する精神である。事物の關係を極限の単位に追ひつめて、その実相を肥羅剔抉し、更に翻つて新を生む精神である。詩精神が言葉に純粹にあらはれれば詩となり、造型に形をとれば美術一般となり、音波に乗れば音楽となる。およそ詩精神を欠く時、これら諸芸術は碌々たる美の形骸に過ぎない。「詩精神」昭和16年11941)

詩魂……物事の本質を十分に見極め、さらに端的に表現する精神。

光太郎から田口先生宛の書簡

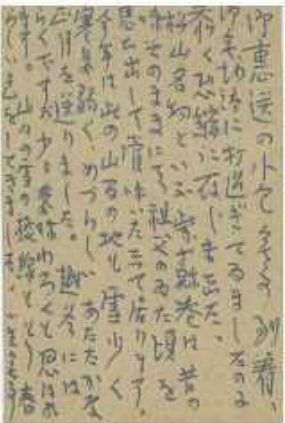
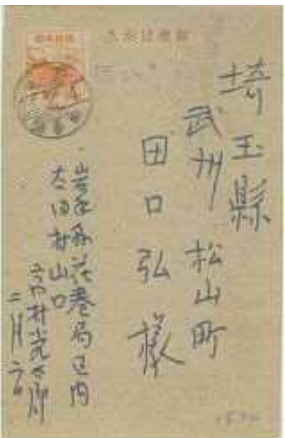
今日は此辺の旧正月元旦です。おだやかないい日和になりさうです。雪が美しく光つてゐます。今朝は去年八月廿三日に貴下からいただいた練乳の罐をあけ、あの大きい湯呑に紅茶をおいしくいれてのみました。久しぶりの味です。そして貴下を遠く偲びました。今どうして居られるでせう。「ジャワ詩抄」は今も小生の机上にあります。二月十日ヤマガチカンボン山 口部落にて、(昭和22年11947 2月10日 岩手太田村より)

カンボン……

「集落」を表すインドネシア語。田口先生が光太郎に贈った手書きの自作詩集『ジャワ詩抄』に使われている。



御恵送の小包無事到着、御無沙汰に打過ぎてゐましたのに忝く恐縮に存じました、松山名物といふ紫蘇巻は昔の味そのままにて祖父の居た頃を思ひ出して賞味いたして居ります。今年はこの山間の地も雪少く寒気弱く、めづらしいあたかな正月を送りました。越冬にはらくですが少々気味わるくも思はれます。山々の雪の稜線ももう春らしい色をしてきました。小生無事。(昭和24年11949 2月2日 同)



紫蘇巻……
かつて埼玉名産として有名
祖父の居た頃……
光太郎2歳の時に亡くなった父方の祖母・すぎは、北葛飾郡下高野村(現・杉戸町)の寺院の出。祖父・兼吉は光太郎17歳まで存命。

いつぞやお心にかけられた御贈物をいただいてたのしく冬籠して居りました。今冬は此の山の中でも割にあたかです。雪も少く、小春日和のやうな日がつづきましたが最近になつて却つて寒さが加はり猛吹雪なども時々襲つてまゐります。二三日前御恵贈の罐づめの一つをあけましたら練乳なのに驚きました。この前にもいただきましたがかかる乳製品の貴重なものを老人がいたたくのは世の嬰兒達に相済まぬ気がいたしました。が、乳類は小生性来の愛好物として珍重此上なく、紅茶に入れたり、うすめて朝のみものにしたたり、パンをつくつたりしてよろこんで居ります。あつく御礼申し上げます。先年いただいた大湯呑も健在にて、これに

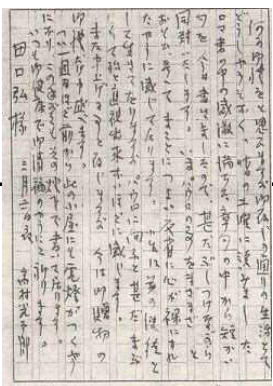
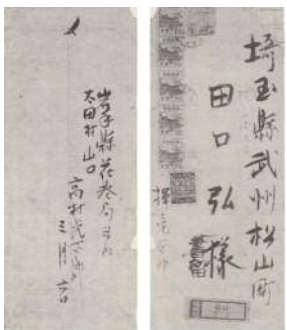
ロマ書……

『新約聖書』中の一書で、使徒パウロの手によるとされる書簡。光太郎はこの中の「我等もしその見ぬところを望まば忍耐をも

て乳をいただいでゐます。何か御礼をと思ひますが御存知の通りの生活で之を待たん」としてどうしやうもなく、昨日の土曜に読みましたロマ書の中の感激に満ちた章句の中から短かい句を今日書きましたので、甚だぶしつげながら生に贈った。4同封いたします。いまパウロの事をまざまざとおもひ、考へてまことにページ図版参照。つよい反省に心が裸にされたやうに感じて居ります。小生は美の使徒として生きて居りますがパウロに向ふと甚だまぶしくて殆ど直視出来な電燈がつくやういほどに感じます。また申上げる事と存じますが今は御贈物の御礼だになり……

光太郎の山小屋は三年半、電線が引かれていなかった。

年 1949 3月6日 同)



おてがみ拝見して小生の書いたものが、赤さん御誕生の翌日に到着したといふ事を知り、たいへんうれしく仕合に感じました。御子さんを得て書いたもの……どんなにか恵みを感じて居られることか、はるかに想像してお祝を申し上げます。同封の詩二篇は立派なものです。新鮮でほんとの感じに満ちて来る「ロマ書」

（昭和24年 1949 3月18日 同）

の一節の揮毫。



昨日小包到着、御惠贈のいろいろのものを見て深く感謝いたしました、小生の足のサイズを御記憶ありて心にかけてこの短靴をお探し下さった御厚情に心をうたれました。使用中のものは既に破れはてて居りましたので此の春から早速役に立ち、まことにありがたく存じます、十一の足には小さかつた。光太郎は文半といふ大きさのものは中々入手し難く、困つてゐたところでした、光太郎は定めし高価のものと存じ恐縮に存じます、例の松山名物のシソまきも、自分の略歴に足練乳も山での貴重品にて忝く存じました、山は今年も雪ふかく、寒さの大きき十三文も中々きびしい事でしたが、或はもう峠を越したかと存ぜられ、小生は半(32・4寸)

元気で居ります、 略儀ながらとりあへず御礼申述べました、 二月十と記していた。

四日 高村光太郎 田口弘様 貴下はじめ皆様の御健康をいのります

(積雪の重みで電燈は断線、小さな物置小屋はつぶれました、 雪の時は郵便物の出し入れが一番不便です、) (昭和25年11月9日 2月14日 同)

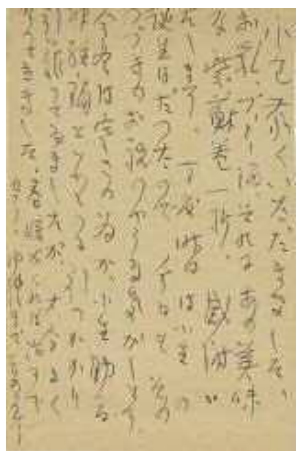
※ この書簡のみ、画像なし

おてがみと雑誌「風土」といただき拝見しました、 若い人達のひたむきな詩心を感じ、むしろ不安を感じるほどで自分の若い頃をおもひだしました、お察しの通り今畑がいそがしくなり、毎日雨ですが晴間を見てはやつてゐます、 去年は夏に一寸病臥しましたが今年はどうやら無事らしいです、(いただいた靴を毎日使つてゐます) (昭和25年11月9日 6月14日 同)



去年は夏に一寸病臥……
前年夏、光太郎はおそらく熱中症と見られる症状で4回昏倒し、村人に看病された。元々光太郎は冬の寒さを好み、夏に弱い體質だった。

小包忝くいただきました、 お乳、ブドウ酒、それにあの美味な紫蘇巻一折、感謝いたします、丁度昨日は小生の誕生日だったので今日もそのつづきいのお祝いのやうな気がします、今冬は寒さの為か、小生肋間神経痛といふものに引っかけかり引籠つてゐましたが、大分よくなつてきました、春暖がくれば治るでせう、御礼までとりあえず、(昭和26年3月14日 同)

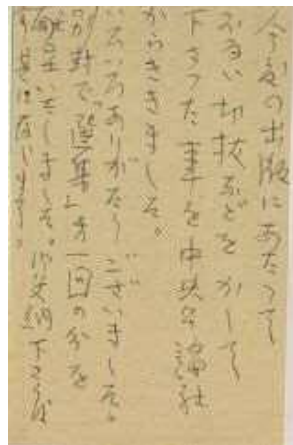
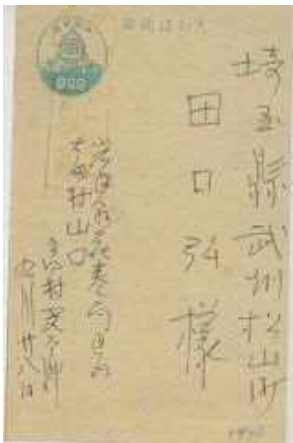


肋間神経痛……
実際には、昭和13年に亡くなつた智恵子と同根の肺結核で、太田村の山小屋でもたびたび血を吐いていた。昭和31年(1956)、直接の死因も肺結核による呼吸不全。

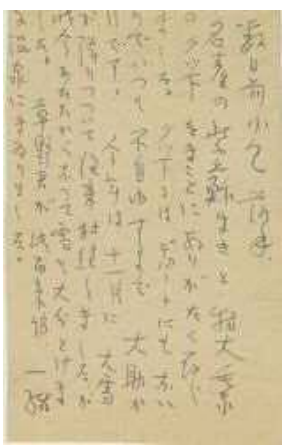
「選集」……

今度の出版にあたつてふるい切抜などをかして下さつた事を中央公論社からききました。 いろいろありがたうございました。別封で「選集」第一回の分を献呈いたしました。御笑納下さらば幸甚に存じます。(昭和26年9月28日 同)

草野心平の編集で、中央公論社より全六巻で刊行された『高村光太郎選集』



数日前小包落手、名産の紫蘇まきと特大毛糸のクツ下をまことにありがたく存じました。クツ下にはデパートにもないのでいつも不自由するので、大助かりです。今年十一月に大雪が降りつづいて往来杜絶しました。草野君が此間来温泉……

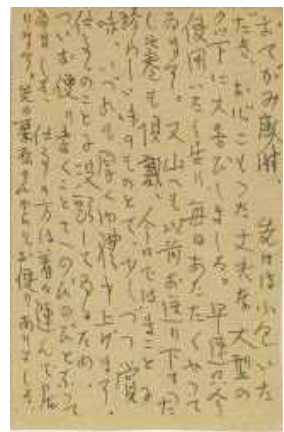


湯本村（現・花巻市）台温泉の松木屋旅館（現存）。

仕事……

青森県より依頼された「十和田湖畔の裸婦群像（通称・乙女の像）」制作。

おてがみ感謝、先日は小包いただき、お心こもった丈夫な大型のクツ下に大喜びしました。早速只今使用いたし居り、毎日あたたかくやつてゐます。又山へも以前お送り下すつたしそ巻も頂戴、今日ではまことに珍らしい味のものとして、少しづつ賞味、いづれも厚く御礼申上げます、仕事のことには没頭してゐるため、ついお便り書くことさへのびのびとなつてゐました、仕事の方は着々運んで居ります、先日栗原さんからもお便りありました、（昭和28年1月22日 中野アトリエより）



中野アトリエ（現存）

任。協会提言委員
会委員長等を歴

栗原さん……
栗原克丸。大正
8年（1919）
滑川町出身。旧
制松山中学校で
田口先生の先輩
だった。県立小
川高校他に勤務
全国学校図書館
協議会提言委員
任。